北 14 中央：演壇 rostra 円柱上の Jupiter と第 1 テトラルキア諸帝像と、皇帝（削除）背後の vexillum2 旒

東 2：Sol 神と 4 頭立戦車　　西 2：Luna 女神と 2 頭立馬車

（他に、5, 7, 9 に河神が登場するが、省略）

【注目点】

以下のエウセビオス叙述(a)とは異なって、コンスタンティヌスがらみの軍旗・神像類に、キリスト教的なものをまったく見いだせない。

II　エウセビオス叙述（『コンスタンティヌスの生涯』Ⅰ.37-43≒『教会史』IX.9.1-11）における「アーチ門」関連叙述：合致点の確認（b≒屋階の碑銘,c,d,e,g,h,i：f は保留）

7) 西面レリーフ（トリーア出陣 Profectio）：37.1

コンスタンティヌスは、この間、これらのことすべてに憐れみを覚え、この暴虐にたいし、さまざまな準備を重ねて武装されました。もちろん彼は、万物の上におられる神をご自分の庇護者とし、キリストを救済者にして助け手をして呼び求められました。そして、a)真に救いのしるしである勝利のトロパイオンをご自分の兵士や近衛兵の前に置くと、b)ローマ人のために先祖から伝えられた自由を守ろうと、全軍を率いられたのです。

8) 南面西レリーフ（Verona 包囲戦 Obsidio）：37.2

一方、マクセンティウスは･･･数え切れぬほど多数の兵士や軍団兵の無数の群れによって、自分が隷属させていたあらゆる場所や、地方、都市などを守ろうとしました。しかし皇帝コンスタンティヌスは、神からの助けにしっかりと寄り頼んで、この暴君の c)第一、第二、第三の拠点を攻撃されました。そして、その全てを最初の一撃で易々と陥落させると、イタリアの地の大部分に軍を進められたのです。

9) 南面東レリーフ（Pons Mulvium の戦闘 Proelium）：38.1-4

コンスタンティヌスはついにローマに迫る所までやって来ました。しかし、そのとき神が自身は、皇帝がこの暴君のためにローマ人との戦いを強いられることがないよう、鎖によってであるかのように、この暴君を城門から遠く離れた所に引きずり出されたのです。そして、はるか昔に不信仰な者への［警告として］聖なる文書に記されたこれらのことは、･･･すべての者によって信じられたのです。その奇蹟を目の当たりにしたからです。（以下、「出エジプト記」からの引用で、エジプトのファラオの運命がマクセンティウスの予見だったという見地から述べられる）。･･･ それと同じように、マクセンティウスや、彼の兵士や近衛兵も「石